

Long-term prognosis of adult patients with steroid-dependent minimal change nephrotic syndrome following rituximab treatment.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩渕, 裕子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31323

主論文の要旨

Long-term prognosis of adult patients with steroid-dependent minimal change nephrotic syndrome following rituximab treatment.

(ステロイド依存性微小変化型ネフローゼ症候群成人患者に対するリツキシマブ治療の長期予後)

東京女子医科大学内科学（第四）教室

（主任：新田 孝作教授）

岩渕 裕子

Medicine 93(29):e300, 2014 Published online DOI 10.1097/MD0000000000000300

【要旨】

本研究の目的は、リツキシマブ治療を行ったステロイド依存性頻回再発型ネフローゼ症候群成人患者の長期予後を検討することである。

ステロイド依存性頻回再発型微小変化型ネフローゼ症候群で、非対照治療研究として6ヶ月毎に4回リツキシマブ 375 mg/m²を投与した患者のうち、投与開始から3年以上経過した25例を対象とし、リツキシマブ開始前後2年間の再発回数を比較した。またリツキシマブを4回投与した後は、患者の自由意思により治療の継続あるいは終了を決定し、3年以降の経過を観察した。

初回リツキシマブ投与前後2年間におけるネフローゼ症候群再発回数は、リツキシマブ投与後において有意に減少を認めた（108回 vs 8回, P<0.001）。またリツキシマブ4回終了後に5例、5回後に4例、6回後に2例が投与を終了したところ、4回目に終了した1例のみCD19回復とともに再発を認めた。一方、リツキシマブ治療を継続した14例では1例も再発しなかった。

本研究では、リツキシマブ治療がステロイド依存性頻回再発型ネフローゼ症候群の寛解維持に有用であることを示した。また、長期リツキシマブ継続症例において明らかな有害事象は認めず再発も認めなかった。